

千葉大学大学院医学薬学府 修士課程

(令和7年10月入学・令和8年4月入学)

学 生 募 集 要 項

医科学専攻・総合薬品科学専攻

令和7年6月

千 葉 大 学

目 次

令和7年10月入学・令和8年4月入学第1回学生募集要項	1
令和8年4月入学第2回学生募集要項（医科学専攻のみ）	7
医学薬学府案内	13
医学薬学府指導教授別研究テーマ	17

出願書類の提出・問合せ先

千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

電 話 043-226-2009（医科学専攻）

043-226-2862（総合薬品科学専攻）

E-mail sah5234@office.chiba-u.jp（医科学専攻）

yakugaku-in@chiba-u.jp（総合薬品科学専攻）

電話での問合せは、9時から17時までです。ただし、土・日曜日・祝日は除きます。

募集要項の内容に変更が生じる場合は、千葉大学大学院医学薬学府ホームページに掲載します。

<https://www.m.chiba-u.jp/dept/gakufu/>

令和7年10月入学・令和8年4月入学第1回 学生募集要項

令和7年10月入学・令和8年4月入学第1回学生募集要項

1. 募集人員

専攻名	募 集 人 員			計
	令和7年10月入学	令和8年4月入学		
医 科 学 専 攻	若 干 名	第1回	第2回	27名
		27名	若干名	
総合薬品科学専攻	若 干 名	50名		50名

2. 出願資格

出願できる者は、次の各号の一に該当する者とします。

注：以下の(1)～(11)の※が付いた年月（令和8年3月※）は、令和8年4月入学の場合です。

令和7年10月入学は令和7年9月に読み替えてください。

- (1) 大学（学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学をいう。以下同じ。）を卒業した者及び令和8年3月※卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和8年3月※までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和8年3月※までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和8年3月※までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和8年3月※までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和8年3月※までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学府において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 令和8年3月※までに次の各号の一に該当する者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
 - ① 大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (11) 本学府において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの及び令和8年3月※までに22歳に達するもの

注：出願資格(9)、(10)、(11)により出願しようとする者は、3ページ「5. 出願資格の審査・認定」を参照してください。

3. 出願手続

(1) 出願受付期間

令和7年7月15日（火）から7月17日（木）まで。

郵送の場合、最終日17時までに必着とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程入学願書在中」と朱書きしてください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

注：出願に際しては、あらかじめ主たる指導を希望する（総合薬品科学専攻について、複数の志望がある場合は、第一志望の）指導教授に必ず照会の上、出願してください。

(2) 願書提出先

千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

4. 出願書類等

志願者は下記書類等を提出してください。

出 願 書 類 等	摘 要
①入学願書・受験票・写真票	本大学院所定の用紙
②写真 (受験票・写真票貼付用2枚)	出願前3カ月以内に撮影（上半身、正面、脱帽）のもの。 (縦4cm×横3cm)
③検定料（30,000円） ※国費外国人留学生（日本政府文部科学省）は、検定料は不要です。	下記により、必ず出願前に、検定料を払い込んでください。 (1) 検定料払込期間： 令和7年6月16日（月）から7月17日（木）まで (2) 払込方法： 「E-支払いサービス」を利用し、コンビニエンスストア決済、金融機関ATM（ペイジー）、ネットバンキング、クレジットカードのいずれかにより払い込んでください。 決済完了後の修正・取消はできませんのでご注意ください。 ※払込手順等はE-支払いサービスWebサイトの「利用ガイド」を参照してください。ご不明な点は、同サイトの「よくある質問」を確認の上、E-支払いサービスサポートセンターに問合せってください。 ※検定料のほかに所定の事務手数料（志願者負担）がかかりますのでご了承ください。 (3) 払込後の手続： 収納証明書を入学願書の裏面に貼付し提出してください。収納証明書の取得方法は以下のとおりです。 ・コンビニエンスストア決済（デイリーヤマザキを除く）の場合 →店舗で受け取ってください。 ・金融機関ATM（ペイジー）、ネットバンキング、クレジットカード、コンビニエンスストア決済（デイリーヤマザキ）の場合 →E-支払いサービスWebサイトの「申込内容照会」から印刷してください。 ■ E-支払いサービス (https://e-shiharai.net/) インターネット上から、コンビニエンスストア、ペイジー、ネットバンキング、クレジットカードから希望の払込方法を選択の上、検定料の払込等ができるサービスです。 ※当サイトへの事前申込が必要です。 

出 願 書 類 等	摘 要
	■ 海外から志願される方へ ※英語版サイト (https://e-shiharai.net/ecard/) こちらはクレジットカード決済のみの案内となります。決済後、印刷した「Result Page」を出願書類と共に提出してください。 
④受験票送付用封筒	長形3号封筒(23.5cm×12cm)に郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手(110円分)を貼り同封してください。
⑤入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙 入試関係通知書等の受取先住所を記入し、同封してください。
⑥卒業(見込)証明書	出身大学(学部)長が証明したもの。
⑦成績証明書	出身大学(学部)長が証明したもの。 2. 出願資格(3), (4), (5), (6)及び(10)の②～④に該当する者は、成績証明書及び「学位記」の写しを提出してください。
⑧学位授与証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、大学改革支援・学位授与機構が証明したもの。
⑨学位授与を申請する旨の証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、短期大学長又は高等専門学校長が証明したもの。
⑩TOEFL-iBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC L&R, TOEIC L&R-IPのスコア シートの原本及び写し (総合薬品科学専攻志願者のみ)	令和4年4月以降に受験した成績が記載されたスコアシートを提出すること。 【スコアの提出方法について】 TOEFLのスコアレポート/TOEICの従来の紙の公式認定証を提出する場合 出願時に原本及びそのコピー(A4サイズ)の両方の提出が必要です。 出願書類を持参する場合は、スコアの原本を確認後その場で返却します。なお、郵送での出願の場合には、スコアの原本を受験票とともに返送します。 TOEICのデジタル公式認定証を提出する場合 (ただし令和5年4月以降に受験したものに限り) TOEIC公式サイトからダウンロードし、印刷した用紙を1枚(A4サイズ)、出願時に提出してください。
⑪履歴書(外国人志願者用)	本大学院所定の用紙(出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。)
⑫住民票の写し (外国人志願者のみ) マイナンバーの記載がない ものを提出してください。	市区町村発行のもの(在留資格及び在留期間が記載されたもの。) なお、住民登録をしていない者はパスポートの写しを提出してください。パスポートの写しは、本人の氏名、生年月日、性別、在留資格を表示する部分及び日本国査証の部分とします。
⑬パスポートの写し (外国人志願者のみ)	氏名等が記載されているページの写し。

(注) 出願書類⑥及び⑦について、改姓等により氏名が異なる場合は、戸籍抄本を添付してください。

5. 出願資格の審査・認定

2. 出願資格(9), (10), (11)により出願しようとする者は、次のとおり出願資格の審査・認定を行います。

(1) 提出書類

提 出 書 類	摘 要
入学試験出願資格認定申請書	本大学院所定の用紙
出願資格認定申請用研究業績調書	本大学院所定の用紙(該当する場合のみ)
成績証明書	出身学校(学部)長が作成したもの 外国において学校教育における15年の課程を修了した者は、成績証明書及び卒業証明書

提出書類	摘 要
出身学校（学部、学科等）規程	卒業に必要な授業科目・単位数のわかるもの
履歴書（外国人志願者用）	本大学院所定の用紙（外国人志願者のみ）

(2) 提出期間

令和7年7月1日（火）から7月3日（木）まで

郵送の場合、最終日17時までに必着とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程出願資格審査書類在中」と朱書きしてください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

(3) 提出先 願書提出先とします。

(4) 審査及び認定 提出書類により審査し、認定します。

(5) 審査・認定の結果は、令和7年7月11日（金）までに本人宛通知します。

6. 選抜方法等

選抜は、学力検査（面接を含む）、成績証明書等を総合して行います。なお、文部科学省国費外国人留学生は、筆記試験（専門科目、英語）を免除します。

(1) 医科学専攻志願者

学力検査期日及び科目

期 日	学 力 検 査 科 目	時 間
令和7年8月6日（水）	専門科目 使用言語：英語 試験内容は、広く医科学・生命科学の基礎知識を問うものになります。	10：30～11：30
	英 語	13：30～14：30
	面接試験	15：00～

各学力検査科目の配点を下表のとおりとし、得点が基準点に満たない科目があった場合には、不合格となります。

専門科目及び英語の試験には、辞書（語学辞書に限る。）の使用を認めます。ただし、電子辞書及び医学用語辞典等の専門用語辞典の使用は認めません。

学力検査科目	配点
専門科目	100
英 語	100
面接試験	100

(2) 総合薬品科学専攻志願者

学力検査期日及び科目

期 日	学 力 検 査 科 目	時 間
令和7年 8月7日（木）	基 礎 科 目 { 基礎生物・基礎化学（必須）* （必須問題のほか、選択問題1題） 有機化学（選択） 生物化学（選択） を検査場で選択して解答する。 }	10：00～11：30
	面 接	13：00～

*基礎生物・基礎化学は、大学教養課程で学修する内容に相当する範囲から出題します。なお、基礎生物は生化学分野、基礎化学は有機化学分野から出題します。

各学力検査科目の配点を下表のとおりとし、得点がそれぞれ基準点に満たない科目があった場合には、不合格となります。また、研究領域によっては、受入人数の関係で不合格となることがあります。

学 力 検 査 科 目	配 点
外国語（英語） （TOEFL-iBT, TOEFL-ITP Level 1, TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP（オンラインを除く）のスコアを100点に換算）	100
基礎科目	200
面接試験	100

(3) 学力検査及び面接場所

千葉大学亥鼻キャンパスで行います。詳細は注意事項掲示で確認してください。

7. 注意事項

- (1) 入学試験に関する詳細については、医科学専攻は令和7年8月5日（火）10時に医学部正面玄関前（医学系総合研究棟）に、総合薬品科学専攻は令和7年8月6日（水）10時に薬学部掲示板（医薬系総合研究棟Ⅱ）に掲示します。
- (2) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) いかなる理由があっても、出願手続き後の書類の変更、受理した出願書類の返却及び検定料の返還はしません。
- (4) 車での来学はできるだけ避けてください。
- (5) 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (6) 電話等による可否の問合せには一切応じません。
- (7) 入学者選抜の過程で収集した個人情報が入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

8. 合格者発表

令和7年9月3日（水）14時予定 ※掲載期間9月5日（金）17時まで

医学薬学府のホームページ（<https://www.m.chiba-u.jp/dept/gakufu/>）に発表するとともに、合格者には合格通知書を送付します。なお、電話やEメールによる問合せには一切お答えできません。



総合薬品科学専攻においては、合格者のうち、入学手続きを行わない者が出たため募集人員に欠員が生じた場合は、9月18日（木）以降、追加合格を行うことがあります。（追加合格候補者は発表しません。また、追加合格者決定についての電話等の問合せには応じません。）

9. 入学手続等

- (1) 令和7年9月17日（水）までに「WEB入学手続システム」にて入学手続を行ってください。

合格者の皆様の利便性を図るため、システムを利用いただくことで大学への来校を不要とし、入学料納入もクレジットカード決済やコンビニ支払いとします。「WEB入学手続システム」や「入学手続」の詳細は千葉大学ホームページへ掲載し、合格者の皆様には合格通知書とともに手続方法の案内を発送します。**入学手続を行わないと入学を辞退したものと見なしますので、十分注意してください。**

- (2) 入学手続の際に納入する経費

- ① 入学料 282,000円
- ② 学生教育研究災害傷害保険料（学研災付帯賠償責任保険含む）
- ③ 外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険（留学生のみ）

（注）1 入学料の納入については、入学手続時に納入願います。

- 2 授業料の納入については、入学年度の前期授業料は5月（2年目以降は4月となります。）に、後期授業料は10月に、それぞれ口座振替により納入願います。口座振替手続等の詳細は、入学手続関係書類により改めてお知らせします。

なお、前期分・後期分授業料は、それぞれ321,480円（年額642,960円）です。

- 3 入学料及び授業料の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

- 4 文部科学省国費外国人留学生は、入学料、授業料は必要ありません。

- 5 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

- 6 入学料及び授業料が免除される制度があります。詳細は千葉大学ホームページ

(<https://www.chiba-u.ac.jp/students/payment/exemption.html>) をご覧ください。



- 7 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険料は、令和8年3月31日（火）（令和7年10月入学は9月30日（火））までに払い込んでください。払込方法は、入学手続関係書類により改めてお知らせします。

※当該保険について

正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。

又、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。なお、保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。



詳細は、千葉大学ホームページ (https://www.chiba-u.ac.jp/for_school-ife/support.html) をご覧ください。

- 8 入学手続完了者が令和8年3月31日（火）（令和7年10月入学は9月30日（火））17時までに入学を辞退した場合には、申し出により既に納入済の学生教育研究災害傷害保険料を返還します。

(3) 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

この選考は、学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等審査の上、日本学生支援機構に推薦するものです。

令和8年4月入学第2回学生募集要項 (医科学専攻のみ)

令和8年4月入学第2回学生募集要項（医科学専攻のみ）

1. 募集人員

専攻名	募集人員
	令和8年4月入学第2回
医科学専攻	若干名
総合薬品科学専攻	—

2. 出願資格

出願できる者は、次の各号の一に該当する者とします。

- (1) 大学（学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大学をいう。以下同じ。）を卒業した者及び令和8年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び令和8年3月までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び令和8年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和8年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和8年3月までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和8年3月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であること。その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (9) 学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学府において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (10) 令和8年3月までに次の各号の一に該当する者であって、本学府の定める単位を優秀な成績で修得したと認めたもの
 - ① 大学に3年以上在学した者
 - ② 外国において、学校教育における15年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者
 - ④ 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- (11) 本学府において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの及び令和8年3月までに22歳に達するもの

注：出願資格(9)、(10)、(11)により出願しようとする者は、9ページ「5. 出願資格の審査・認定」を参照してください。

3. 出願手続

(1) 出願受付期間

令和7年12月16日（火）から12月18日（木）まで。

郵送の場合、最終日17時までに必着とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程入学願書在中」と朱書きしてください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

注：出願に際しては、あらかじめ主たる指導を希望する指導教授に必ず照会の上、出願してください。

(2) 願書提出先

千葉大学亥鼻地区事務部学務課大学院係

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1

4. 出願書類等

志願者は下記の書類等を提出してください。

出 願 書 類 等	摘 要
①入学願書・受験票・写真票	本大学院所定の用紙
②写真 (受験票・写真票貼付用2枚)	出願前3カ月以内に撮影（上半身、正面、脱帽）のもの。 (縦4cm×横3cm)
③検定料（30,000円） ※国費外国人留学生（日本政府文部科学省）は、検定料は不要です。	下記により、必ず出願前に、検定料を払い込んでください。 (1) 検定料払込期間： 令和7年11月17日（月）から12月18日（木）まで (2) 払込方法： 「E-支払いサービス」を利用し、コンビニエンスストア決済、金融機関ATM（ペイジー）、ネットバンキング、クレジットカードのいずれかにより払い込んでください。 決済完了後の修正・取消はできませんのでご注意ください。 ※払込手順等はE-支払いサービスWebサイトの「利用ガイド」を参照してください。ご不明な点は、同サイトの「よくある質問」を確認の上、E-支払いサービスサポートセンターに問合せってください。 ※検定料のほかに所定の事務手数料（志願者負担）がかかりますのでご了承ください。 (3) 払込後の手続： 収納証明書を入学願書の裏面に貼付し提出してください。収納証明書の取得方法は以下のとおりです。 ・コンビニエンスストア決済（デイリーヤマザキを除く）の場合 →店舗で受け取ってください。 ・金融機関ATM（ペイジー）、ネットバンキング、クレジットカード、コンビニエンスストア決済（デイリーヤマザキ）の場合 →E-支払いサービスWebサイトの「申込内容照会」から印刷してください。 ■ E-支払いサービス (https://e-shiharai.net/) インターネット上から、コンビニエンスストア、ペイジー、ネットバンキング、クレジットカードから希望の払込方法を選択の上、検定料の払込等ができるサービスです。 ※当サイトへの事前申込が必要です。 ■ 海外から志願される方へ ※英語版サイト (https://e-shiharai.net/ecard/) こちらはクレジットカード決済のみの案内となります。決済後、印刷した「Result Page」を出願書類と共に提出してください。



出 願 書 類 等	摘 要
④受験票送付用封筒	長形3号封筒（23.5cm×12cm）に郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手（110円分）を貼り同封してください。
⑤入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙 入試関係通知書等の受取先住所を記入し、同封してください。
⑥卒業（見込）証明書	出身大学（学部）長が証明したもの。
⑦成績証明書	出身大学（学部）長が証明したもの。 2. 出願資格(3), (4), (5), (6)及び(10)の②～④に該当する者は、成績証明書及び「学位記」の写しを提出してください。
⑧学位授与証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、大学改革支援・学位授与機構が証明したもの。
⑨学位授与を申請する旨の証明書	2. 出願資格(2)に該当する者で、短期大学長又は高等専門学校長が証明したもの。
⑩履歴書（外国人志願者用）	本大学院所定の用紙（出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。）
⑪住民票の写し （外国人志願者のみ） マイナンバーの記載がないものを提出してください。	市区町村発行のもの（在留資格及び在留期間が記載されたもの。） なお、住民登録をしていない者はパスポートの写しを提出してください。パスポートの写しは、本人の氏名、生年月日、性別、在留資格を表示する部分及び日本国査証の部分とします。
⑫パスポートの写し （外国人志願者のみ）	氏名等が記載されているページの写し。

（注）出願書類⑥及び⑦について、改姓等により氏名が異なる場合は、戸籍抄本を添付してください。

5. 出願資格の審査・認定

2. 出願資格(9), (10), (11)により出願しようとする者は、次のとおり出願資格の審査・認定を行います。

(1) 提出書類

提 出 書 類	摘 要
入学試験出願資格認定申請書	本大学院所定の用紙
出願資格認定申請用研究業績調書	本大学院所定の用紙（該当する場合のみ）
成績証明書	出身学校（学部）長が作成したもの 外国において学校教育における15年の課程を修了した者は、成績証明書及び卒業証明書
出身学校（学部、学科等）規程	卒業に必要な授業科目・単位数のわかるもの
履歴書（外国人志願者用）	本大学院所定の用紙（外国人志願者のみ）

(2) 提出期間

令和7年12月1日（月）から12月3日（水）まで

郵送の場合、最終日17時までに**必着**とします。必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府修士課程出願資格審査書類在中」と**朱書き**してください。

持参の場合、受付は9時から17時までとします。（12時から13時までを除く。）

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

(3) 提出先 願書提出先とします。

(4) 審査及び認定 提出書類により審査し、認定します。

(5) 審査・認定の結果は、令和7年12月12日（金）までに本人宛通知します。

6. 選抜方法等

選抜は、学力検査（面接を含む）、成績証明書等を総合して行います。なお、文部科学省国費外国人留学生は、筆記試験（専門科目、英語）を免除します。

① 学力検査期日及び科目

期 日	学 力 検 査 科 目	時 間
令和8年1月27日（火）	専門科目 使用言語：英語 試験内容は、広く医科学・生命科学の基礎知識を問うものになります。	10：30～11：30
	英 語	13：30～14：30
	面接試験	15：00～

各学力検査科目の配点を下表のとおりとし、得点が基準点に満たない科目があった場合には、不合格となります。

専門科目及び英語の試験には、辞書（語学辞書に限る。）の使用を認めます。ただし、電子辞書及び医学用語辞典等の専門用語辞典の使用は認めません。

学力検査科目	配点
専門科目	100
英 語	100
面接試験	100

② 学力検査及び面接場所

千葉大学亥鼻キャンパスで行います。詳細は注意事項掲示で確認してください。

7. 注意事項

- (1) 入学試験に関する詳細については、令和8年1月26日（月）10時に医学部正面玄関前（医学系総合研究棟）に掲示します。
- (2) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) いかなる理由があっても、出願手続き後の書類の変更、受理した出願書類の返却及び検定料の返還はしません。
- (4) 車での来学はできるだけ避けてください。
- (5) 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (6) 電話等による可否の問合せには一切応じません。
- (7) 入学者選抜の過程で収集した個人情報は入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

8. 合格者発表

令和8年2月20日（金）14時予定 ※掲載期間2月27日（金）17時まで

医学薬学府のホームページ（<https://www.m.chiba-u.jp/dept/gakufu/>）に発表するとともに、合格者には合格通知書を送付します。なお、電話やEメールによる問合せには一切お答えできません。



9. 入学手続等

- (1) 令和8年3月13日（金）までに「WEB入学手続システム」にて入学手続を行ってください。

合格者の皆様の利便性を図るため、システムを利用いただくことで大学への来校を不要とし、入学料納入もクレジットカード決済やコンビニ支払いとします。「WEB入学手続システム」や「入学手続」の詳細は千葉大学ホーム

ページへ掲載し、合格者の皆様には合格通知書とともに手続方法の案内を発送します。入学手続を行わないと入学を辞退したものと見なしますので、十分注意してください。

(2) 入学手続の際に納入する経費

- ① 入学料 282,000円
- ② 学生教育研究災害傷害保険料（学研災付帯賠償責任保険含む）
- ③ 外国人留学生向け学研災付帯学生生活総合保険（留学生のみ）

(注) 1 入学料の納入については、入学手続時に納入願います。

2 授業料の納入については、入学年度の前期授業料は5月（2年目以降は4月となります。）に、後期授業料は10月に、それぞれ口座振替により納入願います。口座振替手続等の詳細は、入学手続関係書類により改めてお知らせします。

なお、前期分・後期分授業料は、それぞれ321,480円（年額642,960円）です。

3 入学料及び授業料の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料が適用されます。

4 文部科学省国費外国人留学生は、入学料、授業料は必要ありません。

5 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

6 入学料及び授業料が免除される制度があります。詳細は千葉大学ホームページ

(<https://www.chiba-u.ac.jp/students/payment/exemption.html>) をご覧ください。

7 学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険料は、令和8年3月31日（火）までに払い込んでください。払込方法は、入学手続関係書類により改めてお知らせします。

※当該保険について

正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。

又、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。なお、保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。詳細は、千葉大学ホームページ (https://www.chiba-u.ac.jp/for_school-life/support.html) をご覧ください。

8 入学手続完了者が令和8年3月31日（火）17時までに入學を辞退した場合には、申し出により既に納入済の学生教育研究災害傷害保険料を返還します。

(3) 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。

この選考は、学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等審査の上、日本学生支援機構に推薦するものです。



医学薬学府案内

医学薬学府案内

1. 入学者受入れの方針

千葉大学大学院医学薬学府の求める入学者

千葉大学大学院医学薬学府は、医学薬学融合型の大学院として、医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究者として自立し研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うとともに、全人的視野に立った医療従事者、医学薬学の知識を持つ先端的生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と創造的医学薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

【4年博士課程】

(1) 先端医学薬学専攻が求める入学者

先端医学薬学専攻は、医学・薬学並びに関連分野において創造的、先端的研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、全人的視野を有する医療従事者、生命科学研究者を育成することを目的としています。この目的の実現のため、十分な学力を基盤として、創成的医療と先端医学・薬学研究に積極的に取り組む学生の入学を求めています。

(2) 先進予防医学共同専攻が求める入学者

先進予防医学共同専攻は、従来の衛生学・公衆衛生学分野を基盤とし、新たな方法論として、オミクス情報からマクロ環境情報まで個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、教育研究分野や医療分野等で、0次予防から3次予防まで包括した個別化予防を実践できる人材の育成を目指しています。先進的な予防医学研究に熱意を持って取り組む意欲あふれる学生の入学を求めています。

【後期3年博士課程】

先端創薬科学専攻が求める入学者

先端創薬科学専攻は、薬学並びに関連する専攻分野において、国際性豊かな独創的研究を展開し、医薬品の開発や臨床応用を通じて、人類の健康や福祉の促進に貢献する先端的研究者を目指す人を求めています。

【修士課程】

(1) 医科学専攻が求める入学者

医科学専攻は、新たな学問体系を網羅する多様な知識を備え、科学の社会的役割ないし責任を正しく理解できる豊かな人間性を持ち、かつ21世紀の国民のニーズに応え得る医学・医療系の人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、一般的基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った学生の入学を求めています。

(2) 総合薬品科学専攻が求める入学者

総合薬品科学専攻は、総合科学である薬学の高度な知識を身に付けるとともに、疾病の診断・治療・予防に用いられる医薬品の社会的諸側面を正しく理解できる人材の育成、さらにグローバルに展開する基礎から応用に至る医薬品開発研究を自立的に担う人材の育成を目指しています。この目的の実現のため、基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を持った意欲ある学生の入学を求めています。

2. 教育課程及び担当教員等

医学薬学府の修士課程、4年博士課程及び後期3年博士課程は、それぞれ次の専攻から構成されています。

修士課程

専攻	取得できる学位
医科学専攻	修士（医科学）
総合薬品科学専攻	修士（薬科学）

4年博士課程

専攻	取得できる学位
先端医学薬学専攻	博士（医学）又は博士（薬学）
先進予防医学共同専攻	博士（医学）

後期3年博士課程

専攻	取得できる学位
先端創薬科学専攻	博士（薬科学）

※4年博士課程においては、取得単位と学位論文の内容により、博士（医学）又は博士（薬学）のいずれかが取得できます。

学位論文の指導については、別表「指導教授別研究テーマ」を参照してください。

3. 修了要件

【修士課程】

標準修業年限は2年です。修了要件は2年以上在学し、34単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は本学の定める特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することです。

優れた業績を上げた者は、1年以上2年未満の在学で早期修了することができます。

【4年博士課程】

(1) 先端医学薬学専攻

標準修業年限は4年です。修了要件は4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することです。

優れた研究業績を上げた者は、3年以上の在学で早期修了することができます。

(2) 先進予防医学共同専攻

標準修業年限は4年です。修了要件は4年以上在学し、35単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することです。

優れた研究業績を上げた者は、3年以上の在学で早期修了することができます。

【後期3年博士課程】

標準修業年限は3年です。修了要件は3年以上在学し、18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することです。

優れた研究業績を上げた者は、1年以上（修士課程を2年未満の在学期間をもって修了した者は2年以上）の在学で早期修了することができます。

早期修了を希望する場合は、各課程において資格審査、修得単位等の条件がありますので事前に申請が必要です。

4. 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例措置について

大学院の課程においては教育上特別の必要があると認められる場合には、大学院設置基準第14条に基づき、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う特例措置が認められています。

本大学院は、従来の医学領域及び薬学領域に加え、新しい医学薬学境界領域における学問に精通した研究者や高度の専門職業人の育成を目的として設立するところであり、この特例措置を導入し教育方法の弾力化を図り履修し易い環境を整備した上で、すでに教育研究の現場において活躍している人材やすでに社会の第一線において活躍している社会人を積極的に受け入れていく方針です。

教育方法の特例措置は個々の修学体制に応じ授業科目の履修及び研究指導の計画を設定しますので、特例措置を適用して受け入れられる体制は研究室単位又は年度毎で状況が異なります。この特例措置を受けようとする志願者は、事前に志望する指導教授に当該研究室の受け入れ体制を照会の上、出願してください。

医学薬学府指導教授別研究テーマ

医学薬学府指導教授別研究テーマ

医科学専攻

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学	分子腫瘍学 金田 篤志	1. 網羅的オミクス解析による発癌分子基盤の解明 2. 環境要因が誘導するエピゲノム異常と癌進展 3. エピゲノムを調節する重要因子と発癌機構の解明 4. 大規模オミクスデータ解析による疾患リスクの同定 5. 発癌ドライバーを標的としたエピゲノム治療基盤の開発
	発生再生医学 斎藤 哲一郎	1. 神経系発生の分子機構の解析 2. 神経幹細胞の分化能の解析と制御 3. 神経細胞の個性獲得機構の解析 4. 神経回路網の構築と高次神経機能への役割の解析
	機能形態学 山口 淳	1. 白質解剖と神経画像 (Tractography, fMRI) による構造的、機能的な脳コネクトーム解析 2. 神経変性疾患の発症機序の解明 3. 脳梗塞の病態解明
	代謝生理学 三木 隆司	1. 糖・エネルギー代謝の制御機構 2. 分泌現象の分子メカニズム 3. 遺伝子改変動物を用いたインスリン分泌と作用の病態解析 4. 電気的興奮細胞の活動調節 5. 神経・内分泌細胞の細胞内シグナル間クロストーク
	先端データ医科学 伊藤 薫	速度的に巨大化、複雑化するヒトビッグデータを解析し、データに隠された真の意図を探求し医療へとつなげることを目的とする。その過程でデータサイエンス的手法を駆使するのに必要な、医療応用統計学、遺伝統計学、ベイズ統計学、機械学習などを用いた疾患モデリングと解析手法を学習する。 1. ヒトビッグデータ解析による疾患病態の解明とライフステージに即した予防医療法の開発 2. 疾患ゲノム・オミクス解析によるトランスオミクス病態解明、ゲノム創薬、リスク層別化バイオマーカーの創出 3. 遺伝性の明らかではない疾患の、単一遺伝子～多遺伝子変異統合解析によるゲノムリスクの全貌解明 4. 生活習慣病を中心とした疾患横断的なゲノム・オミクス解析による包括的な病態解明 5. 行動、代謝、神経可塑性の日周リズムの形成および制御機構
	細胞分子医学 古関 明彦	1. ES細胞やその他の幹細胞を用いた人工胚合成技術の開発 2. ヒトナイブiPS細胞とプタTS細胞（栄養膜幹細胞）を用いた異種人工胚の作製及び解析 3. 多色蛍光レポーターを用いたマウス原始内胚葉の細胞運命の解析 4. 細胞分化や器官形成におけるエピジェネティック制御の解明 5. ヒトiPS細胞由来の免疫細胞を用いたがん治療技術の開発

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学	微生物資源学 〔未定〕 担当教員： 高橋 弘喜（准教授） 矢口 貴志（准教授）	1. アスペルギルス症など真菌感染症における病原性発現機構・感染機構の解析 2. 真菌、放線菌のゲノム解析、系統解析、分子疫学的解析 3. 病原真菌・放線菌と宿主の相互作用（受容体等）の研究 4. 病原真菌・放線菌の分子生物学的・化学的および形態学的手法を用いた統合系統解析および分子疫学 5. 分子生物学的手法を用いた病原真菌・放線菌の機能遺伝子・2次代謝産物に関する研究
	疾患システム医学 眞鍋 一郎	1. 生活習慣病における慢性炎症の分子機構 2. 組織マクロファージ多様性の解明 3. 長鎖非コードRNA（lncRNA） 4. 臓器間連携による恒常性維持機構と病態 5. 心血管疾患・リンパ浮腫への新規治療法開発
	アレルギー・臨床免疫学 中島 裕史	1. アレルギー性炎症の制御機構の解明 2. サイトカインシグナル伝達機構の解明 3. 気管支喘息の病態解明 4. アレルギー性疾患の新規治療法の開発 5. 膠原病における臓器障害機構の解明 6. Tリンパ球の分化・活性化機構の解明とその抑制による疾病制御 7. 自己免疫疾患の病態解明 8. 自己免疫疾患の新規治療法の開発
	病原細菌制御学 〔未定〕 担当教員： 清水 健（准教授）	1. 病原細菌の毒素産生に関する研究 2. 細菌毒素の作用機序に関する研究 3. 病原細菌の病原性制御法の開発と臨床応用に関する研究 4. 病原細菌の宿主防御機構に対する抵抗性に関する研究 5. 抗菌薬の新規使用方法の開発と臨床応用に関する研究 6. 高病原性細菌の検出方法の開発と臨床応用に関する研究
	感染病態学 鈴木 忠樹	ワンヘルスアプローチと微生物学・分子生物学・疫学・生命情報科学・ワクチン学等の異分野融合による感染症の病態解明研究 1. 人獣共通感染症のパンデミックポテンシャル決定因子解明研究 2. パンデミックポテンシャル呼吸器感染症や人獣共通感染症の感染病態解明研究 3. 呼吸器感染症の流行制御可能なワクチン・治療薬・粘膜免疫の開発研究 4. 呼吸器感染症や人獣共通感染症ウイルスの血清・分子疫学調査研究 5. 感染症危機発生時の公衆衛生対応や感染予防法に資する疫学研究 6. 病原性真核生物の恒常性維持機構の解明とそれを標的とした感染制御研究
	感染病態学（統合微生物学） 五十川 正記	ウイルス感染に対する生体防御機構の研究 1. 肝臓における免疫寛容誘導メカニズムの解明 2. 慢性ウイルス性肝炎に対する治療ワクチンの開発研究 3. 慢性ウイルス性肝炎から肝発癌への進展を規程する因子の同定 4. 治療ワクチンによる肝細胞癌の制御 5. B型慢性肝炎の機能的治癒を目指した治療薬の開発

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学	感染生体防御学 〔未定〕 担当教員： 彦坂 健児（准教授）	1. 寄生性原虫のミトコンドリア・葉緑体に関する研究 2. 寄生性原虫と宿主細胞の相互作用の解析と薬剤開発 3. 寄生性原虫のオートファジー分子機構と生理学的意義の解析 4. 寄生性原虫の薬剤耐性獲得機序の解明 5. 寄生性原虫のシスト（休眠型）に対する薬剤開発 6. 組織透明化技術による寄生性原虫の新たな検出法の開発 7. 寄生虫感染症の分子疫学
	実験免疫学 木村 元子	1. Tリンパ球の発生・分化機構の解明 2. Tリンパ球の機能解析と疾患制御 3. 胸腺機能に着目した免疫システム形成と疾患との関わりに関する研究 4. 自己免疫疾患や炎症性疾患の病態解明とその制御 5. 抗腫瘍免疫応答におけるTリンパ球の役割の解明とその制御 6. 新たながん免疫療法の開発
	免疫発生学 平原 潔	1. 免疫システムの形成・維持および、他の生体システムとの連関の生物学 2. 病原性記憶T細胞の機能分化における転写調節とクロマチンリモデリング 3. 組織常在性記憶T細胞の機能分化・維持機構の解析による“組織炎症記憶”の解明 4. 外部環境刺激（圧・酸素分圧・pHなど）による組織炎症記憶の形成機構の解明 5. 呼吸器系における希少細胞集団の解析 6. 組織線維化をはじめとする難治性炎症性疾患の病態形成機構の解析と制御 7. アレルギー疾患（喘息、花粉症）の発症機構の解明と新たな治療法開発研究
	腎臓内科学 浅沼 克彦	1. 慢性腎臓病進展メカニズムの解明 2. ネフローゼ症候群の発症機序解明 3. 慢性腎臓病の新規治療薬の開発 4. 糸球体足細胞（ポドサイト）障害の新規バイオマーカーの開発 5. 腎老化におけるポドサイト障害の役割の解明 6. 慢性腎臓病患者（透析患者を含む）の病態と腸内細菌叢の関連についての検討 7. 構造化マニュアルの慢性腎臓病診療への活用の検討 8. 人工知能（AI）を用いた透析管理補助システムの開発 9. iPS細胞を用いた腎臓病の病態解明と治療薬開発 10. ポドサイトへの薬剤デリバリーシステムの開発
	疾患生命医学 石黒 啓一郎 （7.1着任）	1. 減数分裂と体細胞分裂の違いを決定する分子機構 2. 減数分裂の染色体構築の分子機構 3. 生殖細胞分化の分子機構 4. 発生工学技術を用いた疾患モデルマウスの作製と解析

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学	イノベーション医学 〔未定〕 担当教員： 倉島 洋介（准教授）	1. ヒト粘膜免疫の分子細胞生物学 2. 炎症性腸疾患・大腸がんの予防と治療法の確立に向けた粘膜免疫系・間葉系・神経系研究 3. 疾患を引き起こす腸内細菌に対する生体防御機構の解明 4. アレルギーの根治を目指したアレルギー抑制型免疫細胞誘導法の開発 5. 脳腸相関研究
	イノベーション再生医学 〔未定〕 担当教員： 高山 直也（准教授）	1. 転写因子を用いた細胞リプログラミングによる細胞不老化研究 2. 不老化細胞を用いた再生医療研究 3. ヒト血液系細胞を再生する人工骨髄の開発 4. ヒトiPS細胞を用いた動脈硬化の病態解明、創薬開発 5. ヒト正常及び腫瘍性造血幹細胞のエピゲノム制御機構の解明
	臨床感染症学 渡邊 哲	1. アスベルギルス症を中心とした真菌症における病原因子と感染機構の研究 2. 真菌症の診断・治療法の研究 3. 真菌症の疫学及び抗真菌薬耐性機序の研究 4. 環境内の真菌の制御に関する研究（院内感染を含む） 5. 真菌に起因するアレルギー性肺疾患の研究 6. 輸入真菌症の疫学及び診断・治療法の研究
	感染免疫学 米山 光俊	1. 感染に応答した生体防御誘導の分子メカニズムの解明 2. ウイルスセンサー分子による非自己核酸認識の分子機構 3. ウイルスセンサーを介した細胞内シグナルとその生理機能 4. 遺伝子改変マウスを用いた真菌センサー分子の生理機能の解明 5. 遺伝子改変マウスを用いた炎症性疾患発症機構の解析 6. Th17細胞と3型自然リンパ球の分化・機能解析 7. 腸内細菌・真菌叢による宿主病態制御 8. 免疫細胞による腸管上皮細胞の糖鎖修飾誘導・制御機構 9. 微生物による感染と共生機構の解明
	感染症制御学 石和田 稔彦	1. インフルエンザ菌感染症の疫学及び病原因子解析 2. 肺炎球菌感染症の疫学及び病原因子解析 3. B群レンサ球菌感染症の疫学及び病原因子解析 4. 黄色ブドウ球菌感染症の疫学及び病原因子解析 5. 難治性呼吸器感染症の診断・治療・予防法の開発 6. 小児真菌感染症の診断・治療・予防法の開発 7. 予防接種のリスクコミュニケーション
	免疫制御学 藤井 眞一郎	1. 自然免疫と獲得免疫の連結機構と細胞生存に関する研究 2. 樹状細胞を中心とする抗原提示細胞の分化、免疫シグナルに関する研究 3. 腫瘍免疫1（がん免疫抑制機構解明に関する研究） 4. 腫瘍免疫2（がん免疫賦活機構解明に関する研究） 5. がんに対する免疫療法の新規開発 6. がんに対する複合的免疫療法検討に関する研究 7. 感染症に対する免疫療法の開発

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
基礎医科学	免疫制御学 大野 博司	1. 腸管免疫における上皮細胞の役割の解明 2. 腸内細菌叢の生理的意義の解明 3. 細胞内小胞輸送機構の解明 4. 樹状細胞の免疫応答調節機構の解明と細胞療法への応用 5. 担癌宿主における腫瘍免疫機構の解明
	次世代災害治療学 小野寺 淳	1. iPS-NKT細胞免疫療法のエピゲノム研究 2. 老化に伴って出現する異常な免疫細胞の機能解析 3. エピゲノムのバイオインフォマティクス解析 4. 災害時に役立つポータブル医療機器の開発 5. ビッグデータの活用による災害医療への応用 6. 医学生機能別消防団による地域防災モデルの構築
展開医科学	薬理学 安西 尚彦	1. 新規トランスポーターの分子同定・機能解析によるトランスポーター分子標的治療薬の開発 2. トランスポーター機能制御の分子機構解明と「トランスポートソーム」修飾治療法の開発 3. 腫瘍特異的アミノ酸トランスポーターを分子標的とする新規抗がん薬開発 4. 腎尿細管尿酸トランスポーターを分子標的とする新規高尿酸血症治療薬開発
	薬物治療学 石井 伊都子	1. 特殊な病態における薬物投与設計に関する研究 2. 効果及び副作用の解析による薬物治療の提案に関する研究 3. 高脂血症における薬物動態に関する研究 4. 血管の異常に関する薬物代謝の変化
	和漢診療学 〔未定〕 担当教員： 平崎 能郎（准教授）	1. 漢方医学での診断の標準化 2. 漢方方剤の薬理と創薬研究 3. 東西医学融和の治療学 4. 漢方治療の薬剤経済学的解析 5. 抗ガン作用のある天然薬物の解析
	腫瘍病理学 池原 譲	1. プラズマ技術を利用した診断・治療の高度化 例：低侵襲な止血デバイスの開発，近赤外波長域（1,000-1,800nm）イメージングセンサーの開発・実用化，AFM-IRやSEM-EDXで行うソフトマテリアル解析技術 2. 膵炎や膵癌，心筋炎，ケロイドを発症する遺伝子改変マウスモデルの作製と解析 3. 免疫電顕（SEM, AFM）や空間トランスクリプトーム解析を統合して行う次世代の分子病理・超微形態研究 4. 新しい診断・治療機器の開発から，認証・承認，普及を支援するための病理学研究
	診断病理学 池田 純一郎	1. 悪性腫瘍における幹細胞的性格を制御する因子の解析 2. 悪性腫瘍の病理組織学および分子生物学的解析 3. 悪性腫瘍の臨床病理学的解析 4. 悪性リンパ腫の臨床病理学および分子生物学的解析 5. 新規病理組織診断学的手法の開発 6. 細胞診断学的手法を用いた研究

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
展開医科学	病態病理学 〔未定〕 担当教員： 岸本 充（准教授）	1. 悪性腫瘍の生物学・分子生物学 2. 腫瘍の分化転換機構の解明 3. 転写因子による腫瘍の制御 4. 表現形転換に注目した基礎的生物学
	呼吸器内科学 鈴木 拓児	1. 肺高血圧症・肺血栓塞栓症・肺循環の病態解析と治療戦略に関する研究 2. 間質性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 3. 慢性閉塞性肺疾患・アレルギー性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 4. 胸部悪性腫瘍（肺癌・悪性中皮腫など）の病態解析と治療戦略に関する研究 5. 呼吸器感染症（真菌感染症・抗酸菌感染症など）の病態解析と治療戦略に関する研究 6. 肺サーファクタント関連疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 7. 睡眠時無呼吸症候群の病態解析と治療戦略に関する研究 8. 肺の免疫学の研究 9. 肺の再生医学に関する研究 10. 呼吸器疾患に対する遺伝子・細胞治療に関する研究
	泌尿器科学 〔未定〕 担当教員： 坂本 信一（准教授）	1. シスチン尿症の責任遺伝子に関する遺伝学的研究 2. 腎癌尿路上皮癌の遺伝子診断の研究 3. 進行性腎癌における腫瘍免疫の研究 4. 尿路悪性腫瘍における免疫組織学的研究 5. 前立腺癌における免疫組織学的研究 6. 前立腺癌における癌抑制遺伝子・転移抑制遺伝子の研究 7. 前立腺癌のアンドロゲン依存性喪失機構の研究 8. アミノ酸トランスポーターを介した創薬研究
	消化器内科学 〔未定〕 担当教員： 加藤 順（准教授）	1. 進行肝細胞癌における重粒子線治療と免疫チェックポイント阻害剤による革新的治療開発 2. 肝細胞癌に対する免疫療法の最適化に向けた腫瘍微小環境の空間解析と臨床的バイオマーカーの統合研究 3. 脂肪性肝炎の免疫・代謝プロファイルに基づく疾患予測と個別化医療の開発 4. 胆膵癌の早期診断および治療効果予測のための臨床的検討と横断的オミクス解析によるバイオマーカー探索 5. 進行胆膵癌に対する治療薬探索を目的とした次世代シーケンサーを用いた網羅的解析 6. 胆道閉塞に対する内視鏡的インターベンションの臨床的検討 7. 早期消化管癌に対する低侵襲内視鏡治療の有効性に関する研究 8. 早期消化管癌に対する遺伝子、及び機能的側面から見た病態解明 9. IBD治療薬の反応性および副作用出現と腸内微生物との関連 10. 肝臓における自然免疫／獲得免疫のメカニズム解明と新規免疫療法の創出 11. 疾患モデルマウスを用いた難治性肝疾患の発症／進行機序の分子生物学的検討 12. 自己免疫性消化器疾患患者のリンパ球解析による免疫動態把握

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
展開医科学	産婦人科学 甲賀 かをり	1. 絨毛細胞の機能分化・エピジェネティック制御についての研究 2. 胞状奇胎の遺伝学的診断と侵入奇胎の発症機序についての研究 3. 非侵襲的出生前遺伝子診断法についての研究 4. 妊娠高血圧症発症機序についての研究 5. 婦人科腫瘍の早期診断マーカーと新規治療法についての研究 6. 子宮体癌の内分泌療法・妊孕性温存療法についての研究 7. 卵巣癌の治療最適化を目指した研究 8. 子宮筋腫・子宮内膜症の原因に関する分子生物学的研究 9. マウスモデルによる子宮内膜症・子宮筋腫・子宮腺筋症に対する新規治療薬の探索研究 10. 不妊症の病態解明と生殖補助医療の新規治療方法に関する研究 11. 鏡視下／ロボット支援下手術の機器開発にむけた研究 12. 女性の健康の啓発にむけた研究
	医学教育学 伊藤 彰一	1. 卒前医学教育のカリキュラム・教育法・評価法に関する研究 2. 卒後臨床研修の指導法・評価法に関する研究 3. 学習者の学習・キャリア支援に関する研究 4. 卒前・卒後医学教育のIR (institutional research) 研究 5. 教育・学習支援ツールの開発・研究 6. 教育者・指導者育成についての研究
	脳神経内科学 〔未定〕 担当教員： 森 雅裕（准教授）	1. 臨床神経生理学：ヒト軸索イオンチャネルのin vivo解析 2. 神経免疫疾患の病態解析と新規治療開発に関する研究 3. 神経変性疾患の分子病態解析 4. 軸索伸長促進を介する新規神経再生療法の開発 5. プロテオミクスによる神経疾患バイオマーカーの探索と病態解析 6. 臨床自律神経学 7. 神経原性慣性疼痛の病態と治療
	脳神経外科学 樋口 佳則	1. 頭蓋底腫瘍の外科治療の研究 2. 機能的脳神経疾患に対する外科治療の研究 3. 間脳下垂体疾患の診断・治療の研究 4. 悪性脳腫瘍の診断と治療の研究 5. 神経内視鏡による治療法の研究 6. 脳腫瘍と遺伝子診断と治療研究 7. 脳脊髄液循環異常の診断と治療の研究 8. 血管内・血管外科治療の研究 9. てんかんの外科治療の研究 10. 脳神経疾患に対する定位放射線治療の研究
	分子腫瘍生物学 筆宝 義隆	1. オルガノイド発がんモデルを用いた発がん分子機構の解明 2. 患者由来がんオルガノイド培養とその解析（婦人科がん） 3. NCYMを標的とした胆管がん・神経芽腫の治療薬開発 4. RUNX転写因子制御による難治性癌・希少癌制御法の開発 5. 受精鶏卵（CAM）モデルを用いた新規薬剤スクリーニング系の開発
	分子腫瘍生物学 若林 雄一	1. 発がんマウスモデルの開発 2. 多段階皮膚化学発がんモデルの発がん過程において機能する経路の探索 3. マウス遺伝学の手法を用いた発がんに影響を与える遺伝子多型の探索 4. ゲノム・エピゲノム解析による子宮体癌進展プロセスの解明 5. 単一細胞遺伝子発現解析による子宮体癌起源細胞の同定 6. ロングリードシーケンサーを用いたがん診断法開発および治療標的探索

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
展開医科学	重粒子線治療学 山田 滋	1. 炭素線の作用機序に関する研究 2. 炭素線治療技術向上に関する研究 3. 炭素線効果の定量的評価と向上に関する研究 4. 炭素線感受性予測システムに関する研究 5. がんの遺伝子変異と炭素線治療効果に関する研究 6. 免疫・炭素線併用療法の開発研究 7. 画像診断による炭素線治療効果評価に関する研究 8. 炭素線による正常組織障害の治療・防護に関する研究
	内分泌代謝・血液・老年内科学 〔未定〕 担当教授： 堺田 恵美子（准教授）	1. 内分泌代謝病学 ①内分泌・代謝性疾患における転写因子制御と疾患エピジェネティクス ②骨芽細胞・破骨細胞機能制御と骨代謝性疾患 ③ホルモン受容体と核内シグナルによる生体調節機構と破綻の分子メカニズム ④糖尿病・脂質異常症・肥満症と合併症 ⑤動脈硬化症発症機構の解明と新規治療法の開発 ⑥生活習慣病に伴う慢性腎臓病の成因と治療 ⑦脂肪細胞を用いた遺伝子／再生医療研究 ⑧血糖クランプ法を用いたインスリン作用および抵抗性の機序の解明 ⑨副腎皮質癌と転移性褐色細胞腫における新たな治療法開発 ⑩内分泌疾患の新たな病態解明 2. 血液病学 ①急性白血球発症の分子機構 ②骨髄増殖性疾患における骨髄線維化の分子機構の解明 ③多発性骨髄腫の薬剤耐性機序の解明 ④同種造血幹細胞移植療法の確立 ⑤Crow-Fukase 症候群の発症機構の解明と治療法の確立 ⑥造血器悪性腫瘍における新たな血清腫瘍マーカーの確立 3. 老化・老年病学 ①早老症のメカニズム解明と治療介入 ②サルコペニア・フレイルの予防と新しい高齢者医療の開発
	小児病態学 濱田 洋通	1. 小児内分泌疾患の分子機構解明とゲノム編集技術を用いた治療法の確立 2. 小児がんのがん免疫、がんゲノム研究、新たな細胞治療の開発 3. 川崎病の原因探索と治療法開発 4. 免疫疾患に係わる新規バイオマーカーの探索と機能解析 5. 小児アレルギー疾患の発症機構と予防法の開発 6. 新しいMRI 画像解析技術を用いた疾患脳研究、脳定量解析 7. 新生児期・乳児期の感染症予防、予防接種の免疫原性に関する研究 8. 新生児疾患の病態・診断・治療に関する研究
	免疫細胞医学 本橋 新一郎	1. NKT細胞の抗腫瘍効果に関する分子メカニズム解析 2. がん免疫細胞治療の臨床研究 3. がん免疫細胞治療に関するバイオマーカー探索 4. 治療用免疫細胞の細胞規格研究 5. iPS細胞由来の免疫細胞を用いたがん免疫療法の開発研究 6. 樹状細胞を介した免疫抑制機構の解明

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
展開医科学	循環器内科学 小林 欣夫	1. 心臓血管疾患の再生治療 2. 心不全・動脈硬化・高血圧の病態機序の解明および新規治療法の開発 3. 循環器疾患の臨床データ解析による疾患予測モデルの確立 4. 循環器疾患の画像診断 5. 虚血性心疾患、不整脈に対するインターベンション
	整形外科 大鳥 精司	1. 頸椎症性脊髄症の病態解明 2. 腰痛の発生メカニズムに関する研究 3. 変形性膝関節症の病態解明 4. 変形性股関節症の病態解明 5. スポーツ医学 6. 整形外科疾患のMRI診断 7. 外傷・傷害の病態および治療に関する研究 8. 運動器バイオメカニクス 9. 上肢・手の外科疾患の病態解明 10. 足部・足関節疾患の病態解明
	運動器疼痛疾患学 佐粧 孝久	1. 運動器疼痛疾患の病態解明 2. 運動器疼痛疾患の疼痛機序の研究 3. 変形性関節症の早期診断法の確立 4. 整形外科におけるAIの関与
	口腔科学 鵜澤 一弘	1. 口腔癌における治療抵抗性克服に関する分子生物学的研究 2. 口腔癌におけるドラッグ・リポジショニングに関する基礎研究 3. 口腔組織・疾患におけるcollagen cross-linkに関する基礎研究 4. 歯・骨の増生と吸収に関する研究 5. 唾液腺の発生と再生に関する研究 6. 口腔のmicrobiomeに関する研究 7. 顎切除後の咬合構築・創生法に関する開発研究
	画像診断・放射線腫瘍学 宇野 隆	1. 放射線治療の物理・技術・臨床に関する研究 2. MRリニアックによる新たな放射線治療技術の研究 3. MR画像誘導即時適応放射線治療の開発に関する研究 4. MRIを用いた中枢神経機能評価に関する研究 5. CTによる新たな臓器機能評価法開発に関する研究 6. 核医学イメージングによる臓器機能・代謝評価の研究
社会医学	公衆衛生学 尾内 善広	1. 多因子疾患の発症および重症化に関与する遺伝要因の同定とその臨床応用に関する研究 2. 新型コロナワクチン接種後の低抗体価、副反応リスクの遺伝要因に関する研究 3. 希少難病の病因・病態の解明および診断と治療に関する研究 4. ナショナルデータベース（NDB）を用いた疫学研究 5. 遺伝カウンセリングに関する研究 ☆遺伝カウンセラーコースに出願を希望する者は、公衆衛生学研究領域に出願してください。
	環境労働衛生学 諏訪園 靖	1. 職域における健康管理に関する研究 2. 環境と人間との相互作用に関する研究 3. 有害物質の生態影響に関する研究 4. 微量元素の人体影響に関する研究 5. 職場におけるメンタルヘルスに関する研究

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
社会医学	栄養代謝医学 櫻井 健一	1. 出生コホート研究 2. 腸内細菌叢とヒトの健康 3. 受胎前・胎児期環境とエピジェネティクス 4. 臨床栄養学研究 5. 小児血管機能に関する研究 6. 1型糖尿病の予測および予防に関する研究 7. 糖尿病合併症および妊娠糖尿病に関する研究
	社会予防医学 〔未定〕 担当教員： 中込 敦士（准教授）	1. 健康の社会的決定要因に関する研究 2. デジタル社会における健康格差研究 3. リアルワールドデータを活用した因果推論研究 4. 介護予防から終末期ケアに渡る老年学的研究 5. 介護・医療関連情報の「見える化」・地域診断の研究 6. 医療介護政策・社会的インパクト研究
	環境健康学 〔未定〕 担当教員： 花里 真道（准教授）	1. 環境中の化学物質の健康影響，特に次世代への影響 2. 化学物質の胎児移行とそのメカニズム 3. 化学物質曝露指標のバイオマーカー検索 4. 生体試料中の環境汚染物質・生理活性物質の分析・測定に関する研究 5. 出生コホートによる健康によい体内環境，物理環境，社会環境の研究 6. 化学物質削減住宅ケミレストOWNを用いた環境改善型予防医学の研究 7. 実証実験施設を用いた健康増進型住環境の研究 8. 健康の維持・増進に関わる地域環境の研究（建造環境と健康） 9. 健康の維持・増進に関わる自然環境の研究（プラネタリーヘルス） 10. 産官学民共創の健康都市・空間デザイン研究と社会実装
	疾患予防医学 小野 啓	1. 肥満と肥満症の実態調査，見逃されている患者へのアプローチの探究 2. 持続血糖測定 of 臨床的意義の研究 3. インスリン情報伝達と臓器連関に関する研究 4. 臨床研究中核病院による「Real World Evidence創出のための取組み（臨中ネット）」データベース構築に関する研究 5. 視床下部および脳幹を中心とした摂食調節に関する研究
	分子病態解析学 田中 知明	1. 転写複合体解析およびエピジェネティクス研究 2. マルチオミクス解析・シングルセル解析による疾患病態 3. 疾患プロテオミクスとAIおよびデータサイエンス 4. 分子内分泌学とホルモン制御機構 5. 幹細胞制御機構と老化シグナル 6. ES・iPSからの内分泌器官分化誘導 7. 新しい遺伝子診断・遺伝医療・検査システム構築 8. 質量分析技術の臨床検査応用

分野名	研究領域 指導教授	研究テーマ
社会医学	法医学 岩瀬 博太郎	1. 画像診断の法医学への応用 2. 薬物分析方法の開発と応用に関する研究 3. 寄生生物のDNA型解析による身元不明死体の出身地推定に関する研究 4. 疾患DNAの解析による突然死診断に関する研究 5. 過酸化脂質の各種病態への関わりに関する研究 6. 千葉県内のChild Death Reviewに関する研究
	医療情報学 〔未定〕 担当教員： 鈴木 隆弘（准教授）	1. 電子カルテシステムの構築 2. 医療情報の共有による地域連携 3. インターネット診療システムの開発 4. 巨大医療データベースの構築 5. 電子カルテへのテキストマイニングの応用 6. 診療支援システムの開発 7. 医療情報の医療経営への応用
	精神医学 〔未定〕 担当教員： 新津 富央（准教授）	1. 臨床精神薬理学 2. 精神疾患の病態解明とバイオマーカー開発 3. 精神疾患の治療法開発 4. 認知行動学 5. 司法精神保健 6. 地域精神医療システム
	認知行動生理学 清水 栄司	ストレスフルな情報化社会で、こころと脳が適切に機能するために、バランスの良い認知と行動と感情と注意の連動に関するメンタルヘルスを幅広い観点から研究する 1. 認知行動療法のランダム化比較試験などによる効果検証の研究（医療、保健福祉、教育、産業など） 2. 脳画像、脳波、電気刺激等の脳科学研究 3. デジタルセラピューティクス（DTx）「アプリを用いたデジタル治療」に関する研究 4. 認知科学・行動科学・心理学・精神科学・脳科学・記憶と学習等に関する研究
	神経科学 金原 信久	精神病状態を理解し、精神疾患の有効で新しい治療法の開発を目指す。 1. 統合失調症・治療抵抗性統合失調症を含む精神病性障害の生物学的指標の探索 2. 統合失調症を含む精神病性障害の長期経過の追跡研究 3. クロザピンを含む抗精神病薬治療の治療手順に関する研究 4. 有効性かつ安全性の最大化を目指す臨床薬理学的研究 5. 向精神薬による重篤な副作用に関する研究 6. 精神病性障害の患者に対する疾病教育や心理療法の開発：セルフスティグマやレジリエンスに着目する。
	司法心理学 〔未定〕	〔未定〕（以下は前任の指導教員の内容である。） 1. 非行少年・犯罪者のアセスメント 2. 非行少年・犯罪者の処遇論 3. 非行少年への心理援助的関与 4. 非行と虐待の関連

分 野 名	研 究 領 域 指導教授	研 究 テ ー マ
社 会 医 学	司法精神保健学 五十嵐 慎人	1. 医療観察法の運用 2. 触法精神障害者の処遇システムの国際比較 3. 精神障害者の人権擁護 4. 刑事責任能力の判定 5. 成年後見制度における能力判定 6. 犯罪者の心理学的アセスメント 7. 刑務所収容者の精神保健
	応用精神医療学 渡邊 博幸	1. 精神神経疾患・薬物療法手順の開発 2. 精神神経疾患における再発予防法の開発 3. 精神神経疾患患者への多職種サービスモデルの開発
	精神神経科学 高橋 長秀	1. 自閉スペクトラム症, 注意欠如・多動症の病態を解明する認知科学, 神経生理学的研究 2. 自閉スペクトラム症を初めとする神経発達症の病因を解明する遺伝・分子生物学的研究 3. 自閉スペクトラム症, 注意欠如・多動症に対する治療介入, 支援技法に関する臨床研究 4. 自閉スペクトラム症, 注意欠如・多動症に併存する精神・神経疾患の病態, 治療介入に関する研究 5. 児童・青年期の精神疾患の病態と治療に関する臨床研究 6. 神経発達症（発達障害）, 精神疾患の患者家族のメンタルヘルスと介入に関する研究 7. 児童・青年期の精神疾患, 神経発達症（発達障害）に関する調査研究
	人工知能（AI）医学 川上 英良	1. 機械学習を用いた疾患の層別化手法開発と新しい疾患分類探索 2. 疾患の状態遷移モデル構築と未来予測 3. オミクスデータに基づく制御因子推定手法開発 4. ゲノムデータの解析手法開発と疾患予測への応用 5. 臨床画像データの画像解析・深層学習手法開発と応用
	臨床研究・治療評価学 花岡 英紀	1. 医療のレギュラトリーサイエンスに関する研究 2. 医薬品, 医療機器の有効性および安全性に関する研究 3. 医療行政の評価に関する研究 4. 臨床試験の医薬統計に関する研究

(別表)

指導教授別研究テーマ

総合薬品科学専攻

備考 ※令和8年4月1日より担当変更予定

研究領域 指導教授	研究テーマ
薬化学 根本 哲宏	1. 医薬品合成に有用な高効率分子変換法の開発 2. 合成プロセスの短工程化を実現する触媒的合成法の開発 3. 生物活性有機化合物の合成 4. 機能性分子合成と医薬化学研究への応用
薬品合成化学 山次 健三	1. 生体高分子の自在化学変換を可能にする新反応・新手法の開発 2. 化学修飾生体高分子を基盤とする生物学的・医薬学的有用分子の創成 3. 生物活性含窒素天然物の全合成研究と医薬先導化合物の設計と創製
天然物創薬化学 石川 勇人	1. 薬用資源植物からの新しい活性分子種（創薬シード分子）の追求（主に中分子天然物の単離，精密構造解析，構造変換） 2. 有用生物活性天然物の合成化学研究（不斉全合成，化学変換，構造修飾，効率的供給法の開発） 3. 創薬先導化合物の創製（天然物・合成品化合物ライブラリーを活用したメディシナルケミストリー研究，作用発現の分子機構の解明）
製剤工学 森部 久仁一	1. 難水溶性薬物の溶解性を改善する特殊製剤の開発 2. 固体NMRによる製剤評価技術の確立 3. ナノ製剤の物性評価法の開発 4. 薬物過飽和挙動の解明
薬品物理化学 西田 紀貴	1. 動的立体構造解析に基づくタンパク質の機能解明 2. 細胞内NMR計測法の開発と細胞内生命現象の解明への応用 3. 複数の構造生物学的手法を組み合わせたタンパク質構造解析
理論創薬 星野 忠次（准教授）	1. 構造解析に基づいた抗ウイルス薬の論理設計および有機合成と活性評価 2. 大規模計算機スクリーニングによる医薬先導化合物の探索 3. 結合構造および相互作用解析を基盤とした抗体医薬の分子設計
分子機能化学 橋本 卓也	1. 触媒分子のデザインによる高効率分子変換法の開発 2. 基質分子のデザインによる医薬品合成の短工程化法の開発 3. プローブ分子のデザインによる生体内環境の可視化法の開発
遺伝子資源応用 山崎 真巳	1. 薬用植物における有用物質生産の分子機構解明 2. 統合オミクス解析による植物二次代謝のシステム生物学 3. 薬用植物の代謝工学および合成生物学への応用展開
生化学 伊藤 素行	1. 細胞間情報伝達機構解析による病態制御 2. ストレスや老化による脳機能（記憶・睡眠）低下機構の解明 3. 代謝異常モデル動物の開発と病態解析 4. 脳梗塞モデル動物の開発と病態解析

研究領域 指導教授	研究テーマ
免疫微生物学 川島 博人	1. リンパ球体内動態と獲得免疫における糖鎖機能の解明 (1) 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた解析 (2) 新規抗糖鎖抗体を用いた解析 2. 新規抗糖鎖抗体を用いた免疫関連疾患治療の開発 3. 高機能化抗糖鎖抗体の開発に基づく抗腫瘍免疫の賦活化 4. アレルゲンの糖鎖修飾に着目したアレルギー疾患治療法の開発 5. ムチンの糖鎖修飾と腸内細菌に着目した大腸炎発症機構の解明
感染制御学 高屋 明子 (准教授)	1. 宿主免疫応答と関連した細菌感染制御の分子機構研究 2. 臨床分離薬剤耐性菌の耐性機構解明 3. 過酷な環境に適応する細菌生存戦略の解析 4. 抗微生物活性をもつ天然化合物の抗菌活性機構に関する研究
遺伝子創薬学 中山 学	1. ゲノム改変技術の開発と疾患モデルマウスの創出に関する研究 2. ヒト一般病の関連遺伝子同定のためのコンデショナルノックアウトマウス・パイプライン構築に関する研究 3. 神経系で発現する巨大蛋白質群の包括的機能解析に関する研究
分子画像薬品学 上原 知也	1. アスタチンを用いた核医学治療薬の開発 2. 抗体やペプチドを利用したDDS 3. がん治療効果の早期判定および治療指針選定に有用な分子イメージングプローブの開発 4. フッ素やガリウムを用いたPETプローブの新規開発
予防薬学 小椋 康光	1. 生命金属科学・メタロミクス研究 2. 生体微量元素に関する新規分析法の開発 3. 屍化学の創成と社会実装 4. アンチドーピングに関する先端分析法の開発
環境リスク 中島 大介	1. 多種・新規化学物質曝露の包括的把握・網羅的分析手法の開発に関する研究 2. 事故・災害時等の緊急環境調査手法の高度化に関する研究 3. 都市大気中の有害化学物質の長期トレンドに関する研究
環境リスク 小林 弥生	1. 分析毒性学的手法を用いた半金属元素の代謝機構の解明 2. 化学物質による健康影響評価のためのヒューマンバイオモニタリング手法の開発 3. 化学物質の曝露評価と生体影響
薬効薬理学 中村 浩之	1. セラミド代謝系酵素群の分子薬理学的解析と創薬標的としての薬理学的検証 2. セラミド、スフィンゴ脂質やその誘導体の生理・薬理作用の解析 3. ニーマン・ピック病C型、多発性硬化症、特発性肺線維症（IPF）などの希少・難治性疾患に対する治療薬の開発 4. 生体内情報伝達物質とその受容体、シグナル伝達機構、細胞応答に関する研究
薬物学 畠山 浩人	1. 免疫チェックポイント阻害剤の薬効・動態・副作用解析と治療最適化の研究 2. 高分子医薬やナノDDSの体内・細胞内動態制御技術の開発 3. 温熱治療、光免疫療法の耐性メカニズム解明と治療法の開発

研究領域 指導教授	研究テーマ
生物薬剤学 伊藤 晃成	1. 薬物毒性発現メカニズム解明に関する研究 2. 薬物毒性発現リスク予測に関する研究 3. がん細胞内エネルギー代謝と薬物感受性に関する研究
分子心血管薬理学 *高野 博之	1. 心不全の病態解明と新規治療法の開発 2. 心疾患モデル動物の開発と病態解析 3. 虚血性心疾患に対する再生治療の開発 4. 血管新生の分子機序の解明 5. 動脈硬化の発症および進展における炎症・免疫機構の関与に関する研究
臨床薬物治療学 山崎 伸吾	1. スペシャルポピュレーションへのTDMの応用 2. 薬物療法の個別最適化に関する研究 3. 感染制御及び抗微生物薬適正使用に関する研究
実務薬学 関根 祐子	1. 点眼薬アドヒアランスと効果的な服薬指導に関する研究 2. 嚥下能力と内服薬の服薬に関する研究 3. 過量服薬（オーバードーズ）や自殺対策に関する研究
臨床薬理学 〔未定〕 担当教員： 佐藤 洋美（准教授）	1. メタボローム解析等を利用した病態微小環境および細胞間コミュニケーションの追究 2. 個別化医療を指向する性差医学や薬物相互作用の研究 3. 数理モデルや機械学習を活用した疾患の長期進行の解析，治療最適化の研究 4. 研究対象疾患はがん，循環器系疾患，糖尿病，中枢神経系疾患など
医療薬学 石井 伊都子	1. 特殊な病態における薬物投与設計に関する研究 2. 効果及び副作用の解析による薬物治療の提案に関する研究 3. 高脂血症における薬物動態に関する研究 4. 血管の異常に関する薬物代謝の変化